

会員のみなさまへ

本年は、台風の影響による豪雨・堤防の決壊、地震、火山噴火等、地球上の変動を感じますが、会員の皆様にはお差し障りなくお過ごしでいらっしゃいますか。お伺い申し上げます。



8月17日、18日の二日間開催致しました夏季研修会は、暑さの中、多くの方々が参加され、盛会でした。特別講師の作曲家・木下牧子先生には、ご熱心なご指導を賜りました。会終了後は、先生と写真撮影やお話をするなど、和やかな雰囲気に包まれました。

理事全員で企画・計画し、各々の分野で講座を持ち、演奏に参加し、又、合唱の指導、指揮を致しました。充実した研修会であったと参加した会員の方々から伺い、うれしく思っています。

ご尽力下さいました先生方に、心から感謝申し上げます。

会員の皆様どうぞご希望をお寄せ下さいませ。皆様のご要望に少しでも答えられますよう、努力致して参ります。よろしくお願い致します。

会長 末 芳枝

2015年夏季研修会報告 8/17, 18日

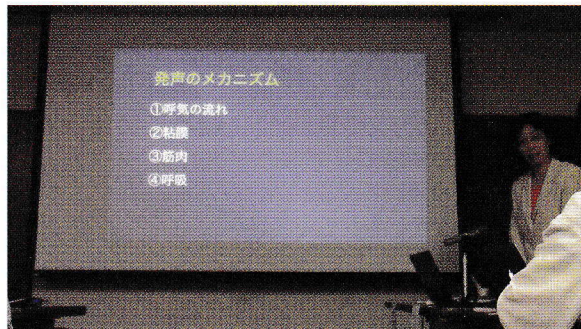
《A講座 音声生理学と実践》 竹田数章

1.シンポジウム「呼吸・横隔膜と音声」（呼吸が声帯で音声となるまで）、2.ディスカッション

「声楽家は発声でどのように呼吸をコントロールして



いるか」の2部構成、担当1.は竹田数章と西浦美佐子、2.は川上勝功、永井和子。



2.シンポジウム 発声においては、呼吸・喉頭での声帯調節・共鳴構音が重要。今回は発声における呼吸と声帯で喉頭原音が作られるまでについて、医学的な観点から呼吸器官や発声器官の解剖と生理的な働きについて述べた。私たちは呼吸を利用して声帯を振動させている。吸気においては横隔膜筋などが関わる。吸気は胸郭、胸腔の容量が増えた分しか空気を取り込めない。その意味で如何に胸郭を広げるかが重要。横隔膜は短時間に効率良く胸腔を上下方向に広げ、吸気をまかなうことができる。また呼気の際も横隔膜は、呼気が急激に出してしまうのをセーブしてロングトーンに有効に働く。それら歌唱時の呼吸の有様をレントゲン撮影したビデオで見た。西浦先生は喉頭に関しての解剖と音声生理を詳しく説明。内喉頭筋群や呼気に伴うベルヌーイの法則によって声帯が振動することなど良くわかった。2.のディスカッションでは永井、川上両先生が声楽家の立場から如何に呼吸のコントロールが歌唱において大切かを話され、その重要性が伝わった。



《歌の集い》

淡野弓子

2011年から始まった「歌の集い」も今年は第10回目を迎えました。今回のテーマは「日本の歌曲——1900年代～現在」というもので、今年の3月31日付で募集要項がHPに掲載され、締め切りの5月10日には以下のように5組の出演者が決まりました。



高木照子 (S) ↑、



藤本保江 (S) ↑、



山本富美 (S) ↑、



豊田喜代美 (S) ↑、



アンサンブル「海のヴァイオリン」(女声合唱・指揮：淡野弓子) ↑。

取り上げられた作曲家を生年順に記しますと、1886年生まれの山田耕筰が最年長、続いて橋本國彦、貴志康一、平井康三郎、早坂文雄、別宮貞雄、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、小林秀雄、尾高惇忠、江端伸昭、木下牧子となり、大中氏以下5名の方々は現存活躍中です。演奏された全31曲は各演奏者の真摯かつ一途な取り組みによって、それぞれの作曲家の特質を良く知ることができました。また日本の歌曲とはこれほどに広く豊かな世界であったのか、と今更のように感じ入った次第です。



大雨のなかご来場下さった約130名のお客様は当学会員の皆様をはじめ外部の方も多く、さらに作曲者の側からは、貴志康一氏直系のご家族、尾高惇忠氏夫人で声楽家の綾子様、江端伸昭氏のご母堂豊子様、妹さんの津也子様、そして作曲家木下牧子氏などなどの皆様がお聴きくださり感謝でした。



《B講座 ドイツ歌曲を歌う楽しみ》 末 芳枝

ドイツ歌曲を歌い出すと興味は深まるばかりです。それは、数々の美しい詩を味わい、優れた文学作品と接する事が出来るからです。詩は天才作曲家の心を捕え、音楽芸術と和して芸術歌曲となり、その存在価値を一層高めます。こうして誕生した芸術歌曲を歌い、演奏する贅沢な喜びを味わえる事は、われわれ歌い手や演奏する者の大いなる特権です。作品に心を惹かれ、その感動を聴衆に伝えるために、作品を表現するテクニック、発声法の研究を常に行う必要がある事は周知の通りです。今夏の研修会について僅かですが触れておきたいと思います。



①「ねずみとりのお呪い」H・ヴォルフ作曲、メーリケ詩。皮肉とユーモアを交えた曲で、リズム好く、言葉のニュアンス・雰囲気大切に表現する事を説明。

②「麗しい五月」シューマン作曲、ハイネ詩、歌曲集「詩人の恋」第1番目。ヨーロッパの冬は寒く長い。太陽が輝く五月、生あるもの全てが一度に活動を始める。恋は芽ばえ、詩は生まれ、芸術作品も誕生する季節感を説明。



③「セレナーデ」シューベルト作曲、レルシュタープ詩、歌曲集「白鳥の歌」第4番目。シューベルト死の年の歌曲。通常の歌曲集と異なり連作歌曲ではない。ギターを伴って恋人の家の窓辺で心の内を熱く表現する歌い方を助言。



④「愛の誠」ブラームス作曲、ライニック詩。母親と娘が愛について語り合う対話。娘は毅然として愛を貫き通す歌い方、二人の対話の歌い方を指導。

⑤「雨」ヨーゼフ・マルクス作曲、原詩ヴェルレーヌ。オーストリーの作曲家のこの曲の内面を表現する事は難しいが、名曲。楽譜も近年購入可能です。



《C講座 木下牧子声楽作品公開レッスン》

豊田喜代美

現在、最も人気の高い作曲家の一人である「木下牧子氏の声楽作品公開レッスン」は、会場をほぼ埋めた聴取者の方々の期待に満ちた熱気につつまれた中で開催されました。

公開レッスン受講者2名の方々はそれぞれに、木下作品を日頃から折に触れて演奏なさっているとこのことで、お二人ともに木下牧子作品に対する愛情が、やわらかで優しさのこもった歌声に表れていました。木下牧子さんはその点を高く評価なさいました。

日本声楽発声学会 学会通信 第32号



そして言葉の意味から派生する「声の音色」と「フレージング」に対しての細やかなご指摘がありました。そのご指摘に対して、声楽発声面からどのように応えたらよいのかを、木下牧子氏にご要望頂いた豊田喜代美（本学会理事）がアドバイスをしました。



岡村正子(Sop.)

内容は、まず声楽の基本としての「楽器として立つ姿勢」の検証を行いながら、良い姿勢による発声が音色の変化を実現すること、また「呼吸と支え」に対する意識の持ち方で呼吸配分のコントロールが容易くなり、思ったとおりのフレージングが実現することを、受講者のお二人は見事に示して下さいました。



草間健一郎(Br.)

小川昌文指揮による女声アンサンブル・ドルフィンズは精鋭のメンバーです。木下牧子氏による作品説明で曲の本質を的確に捉え、歌詞の母音の響きの発声の工夫によって見事な



女声アンサンブル・ドルフィンズ



演奏表現が実現し、木下牧子氏も感心しきりでした。

木下牧子さんが大切に思うことの一つに「ホールに響く生の歌声」があります。繊細でしなやかな強さと柔らかな魅力あふれる感性に満ちた木下作品を参加者全員が楽しむことができた公開レッスンになったと思います。木下牧子さんからもお喜びのお言葉を頂きましたことをご報告申し上げます。



木下牧子先生

ベルカントを巡る

No.7「カストラートの教育」 河合孝夫

17世紀の作曲家にボンテンピが、ローマの音楽院で勉強中のカストラートの生活を書き残しており、声楽の貴重な資料になっている。その中に「モンテマリオのちかくのポルタアンジェリカの谷で、こだまを聞いて声の欠点を直した」という記述がある。録音機器のない時代の知恵と工夫と努力のエピソードである。



17世紀初め、独唱声楽が始まるとBUON CANTO（よい歌い方）という概念が生まれ、声楽技術と共に発展した。カストラートの卵達も、この概念をもとに、イタリア各地にできたコンセルヴァトーリオ（音楽院）で6年から9年の間教育を受け、舞台にデビューしていった。教育内容は、ソルフェッジオ、発声法、母音の響かせ方、コロラトゥーラや旋律の装飾法などであり、それらは現代の声楽の基礎となるものであった。

発声：歌声は、自然な声＝胸声（Voce piena e naturare）と作った声（裏声）＝頭声（Voce finta）に区別され、ふたつの声を人に気づかれることなく転換できるよう指導された。この声区の転換は難しく、まるで小さな橋を渡るように注意深く歌わなければならないことから、転換点をIl ponticello（小さな橋）と呼び、メッサ・デイ・ヴォーチェの技術を使って訓練した。

共鳴：声の響きには「口の共鳴」と「鼻の共鳴」があるとされ、声を美しく響かせるためには「鼻の共鳴」をマスターしなければならない。呼吸法を利用して軟口蓋を弛緩し、鼻に響かせるよう指導された。

声域：歌の基本と音程は、中間音の6度という狭い声域で指導された。これには意味がある。そのひとつには子供の発声を無理なく指導できる声域であること、また、もうひとつには当時の階名がドからラまでの6度であり、その中で歌に使う全ての音程関係を指導することができたからである。

音程：正確な音程は、カッチーニ、ドゥランテ、トーゾイなどが主張しているように、音楽の美しさの基本として厳しく指導された。現代とは違い、正確な音程とは純正律の音程のことであり、どんな小さな音程の狂いもすぐ分かるよう、いっさい楽器を使わず声だけで指導された。

それらは「広い全音」（ド～レ）、「狭い全音」レ～ミ、「広い半音」（ミ～ファ）、そして臨時記号で変化した「狭い半音」であった。これらの音程はドからラの6度の音域に全て含まれているので、この音域をマスターできると全ての音程関係と歌唱の基本をマスターすることができた。

ムターツィオ（歌い換え）：6度を越える音域は、全てムターツィオ（歌い換え）によって歌われた。例えば、ドレミファソラシドはドレミファドレミファというようにソラシドが歌い換えられた。これにより、ド～レとファ～ソは「広い全音」、レ～ミとソ～ラは「狭い全音」、ミ～ファとシ～ドは「広い半音」として歌い、美しい音程にすることができた。実際にはシの音がないので、広い半音は全てミ～ファと歌うように歌い換えた。

歌唱と母音：正しい音程をマスターするとa、i、u、e、oの5つ母音の練習が始まった。母音唱法は徹底的に指導され、歌の全てのフレーズを5つの母音で完璧に歌えるようになるまで練習した。そして、6度の音域の中で「しなやかな歌いだし」「声を弱めていくこと」「アクセントをつけること」などが歌えるようになって、はじめてもっと広い音域で歌うことが許された。

装飾法：カストラートの歌唱を特徴づけるのは、現代では考えられないほど息の長いフレーズ、完璧な母音とため息のどるほどのレガート唱法、そして、目の回るようなトリルやコロラトゥーラ、即興的な装飾法等である。それらは、前述の徹底した歌唱指導と対位法の理論に裏付けられた音程関係による装飾法の訓練により生まれた。彼らはこの装飾法の練習を声帯筋肉組織の健康なトレーニングと考えて練習した。

カストラートの学校の日：彼らの学院は教会に属し、生活の基本は修道士と同様、全て神のためであった。全寮制の生活で早朝4時から5時から、夜は10時から11時までが彼らの一日であり、かなりハードスケジュールであった。前述のボンテンピによると、午前中3時間のうちに声楽の個人レッスンと練習、そして文学の授業が1時間。午後は、音楽理論や作曲の勉強をし、クラヴサンや弦楽器、木管楽器、金管楽器など器楽の勉強もした。

このような努力と才能が結実して、神話ともいえるカストラートの歌唱が誕生したのである。

今後の予定

第102回例会

日時：11月29日(日) 9:55~16:15

会場：東京藝術大学

特別講演として、本年は作曲家山田耕筰の没後50周年にあたり「耕筰&白秋からの贈りもの」をテーマに、その道の研究家竹村忠孝氏に講演をお願い致しました。

講演内容は、

1. 近代日本の音楽史と山田耕筰。
2. 山田耕筰の生涯。
3. 山田耕筰と北原白秋。
4. 山田耕筰を歌う(山田耕筰の肉声のCD)。
5. 山田耕筰の残したものの、願いや思い。

会員だより

~~ コンサート案内 ~~

「沖縄県立芸術大学&国立法人琉球大学フレンドシップコンサート」

日程：10月17日(土)18時開場、18時半開演

場所：沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール

出演者：豊田喜代美/ソプラノ、服部洋一/バリトン、上原由記音/ピアノ、佐久間龍也/ピアノ

・曲目：マーラー作曲「子供の角笛」より〈ラインの伝説〉〈天上のよろこび〉、グラナドス作曲〈賢いマホ〉〈夜鳴き鳥〉、他。

オスロ大学男声合唱団 初来日公演

日時：11月4日(水)18時45分開場、

19時15分開演

場所：鶴見区民文化センター /サルビアホール

指揮：カール・ホグセット

曲目：グリーグ、イェンセン、ニーステッド、シベリウス等の作曲家の作品を予定

チケット：一般 2,000円、学生 1,000円、高校生以下 無料

お問合せ：ヴィクトリア・コンソート(川上)

TEL&FAX 045-789-3688

また、当日17:30~ 発声の第一人者である

カール・ホグセット氏による発声ワークショップが開催されます。

モデル合唱団は、横浜雙葉中学高等学校聖歌隊曲目はニーステッドのMary's song

特に合唱に携わる方には是非体感していただきたいワークショップです。

ワークショップは入場無料となっております。

作曲家 信長貴富氏の合唱指導講習会

日時：11月8日(日) 13時30分~16時30分

場所：清泉女学院講堂(住所/鎌倉市城廻200)

出演：ヴォーカルアンサンブル・ヴィクトリア

(指揮/川上勝功) 他4団体

主催：かながわ合唱指揮者クラブ

聴講料：一般 1000円、中・高校生 500円

お問合せ：川上 TEL&FAX 045-789-3688

~~ 募集 ~~

第45回全米音楽指導者会議 (NATS)

2016年7月8日~12日。シカゴ

website(National Association of Teachers of Singing)で閲覧可。

参加登録費は4月1日まで、割引(会員\$425、非会員\$465)になります。

○連絡先 国際音楽指導者会議日本代表 山田実

第9回国際音楽指導者会議

2017年8月2日~6日。スウェーデン、ストックホルム website (ICVT2017) で閲覧可。

研究発表及び参加ご希望の方は山田まで。

Voicem@f00.itscom.net 03-6450-2771

「歌の集い」[11] 参加者

(独唱/合唱) 募集

「歌の集い」第10回は、皆様のお陰をもちまして、多くのお客様を迎え、大好評のうちに終えることができました。

「歌の集い」第11回を以下のように開催致します。会員の皆様の応募を心よりお待ちしております。

日本音楽発声学会 学会通信 第32号

- ・テーマ：ルネサンスからバッハ、ヘンデルへ
- ・日時：2016年3月8日（火）午後7時開演
- ・会場：スタジオ ヴィルトゥオーゾ
（新大久保）（全80席）
- ・内容：独唱及び合唱
（声楽アンサンブル）4～5組。
一組の演奏時間は20分ほど。

応募申請は、「歌の集い[11] 参加申込み」と明記し、氏名、連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）、生年月日、演奏曲目、演奏所要時間、略歴（250字前後）を記して、下記へご連絡ください。

- ・伴奏者は各演奏者でご用意下さい。
- ・応募先：淡野弓子

e-mail:yumikotanno@jcom.home.ne.jp

TEL.03-3970-0585 FAX.03-3998-5238

〒176-0025 東京都練馬区中村南2-24-12

*応募締切 2015年11月30日（月）

*応募者が演奏定員数に達した場合は申し込みを締め切ります。

*演奏参加者決定は12月31日までに事務局より全ての応募者に連絡します。

チケットについて：チケット10枚分（2000円×10枚=20000円）を参加費として、また11枚目からのチケットについては1枚分1800円を当日受付でお納め下さい。

演奏委員 淡野弓子 豊田喜代美 山本富美

*新「歌の集い」主旨

2015年9月発令

「歌の集い」は会員同士が歌う場を通して知り合い、懇親を深め、歌唱技術向上を図ることを目的とし、演奏に対しての研修、指導、演奏後の批評などは一切行いません。「歌の集い」を通して、より多くの会員の皆さまに「定期演奏会」へ関心を持っていただくことを期待します。

本学会の例会・研修会における「歌の集い」は本学会「定期演奏会」と位置づけられ、その出演者は「歌の集い」出演者の中から理事推薦により選抜されます。

例会での研究発表募集

2016年5月例会（日程、場所未定）において、会員の皆さまの研究発表のお申し出をお待ちします。奮ってご応募ください。但し、学会誌「声楽発声研究」NO5/6合併号の、6号P74に記載しております「研究発表規程」一第2条口頭発表（ア）～（オ）をご解説の上、ご応募ください。

事務局から

会費納入のお願い

今年度年会費未納の方は納入をお願いします。また、過年度の年会費未納の方は早急にお振込下さいませよう、お願いいたします。通信欄には、該当年度をご記入下さい。過年度分の納入状況を確認されたい場合にはその旨メール、もしくはFAXでご連絡下さい。

お振込先

ゆうちょ銀行
口座番号 00170-0-119920
加入者名 日本声楽発声学会

連絡先について

郵送物の不着が発生しています。転居等での連絡先の変更はお早めに事務局までご連絡ください。

事務局だより

事務局長 永井和子

学会通信32号をお届けいたします。

2015年11月の本学会例会も102回を数えます。50年前の創立当時は誠に小規模な集まりでありましたとか。しかし今や会員の数も350名余りを超える団体となりました。

徐々に大きくなったこの学会を先人の諸先生方から受け継いで、前年まで支えてくださいました「音声生理学」研究の第一人者とも云える米山文明先生もこの去春他界され、残された私たちは狼狽えました。

しかし大きく複雑になった現在を鑑み、組織化を迫られている団体と頭を切り替え、世相のニーズ、会員の皆さまの要望に答えるべく模索しております。

連絡の不行き届きや批判も多々あるかと思



います。整理をしつつ安定した事務運営に縷々頑張っております。どうかご海容なご理解をくださいますようお願いいたします。

なお、お詫びの申しようもないほど遅くなりましたが、学会誌「声楽発声研究」No. 5号6号の合併号が出来上がり、皆さまのお手元に届いたことと思います。

鈴木慎一郎編集委員長の努力の元充実した内容に誠意を込め制作に取り組みましたことをご報告いたします。会員の皆さまの温かなご協力に感謝いたします。

本学会は会員の活気ある研究の発表場として多方面にわたる声楽における発表のお申込みをお待ち申し上げます。

今回も河合孝夫氏が会員からの投稿欄に投稿くださいました。

編集後記

現在の理事体制になってから幹事の相川修一氏が、例会案内、学会通信、夏季研修会のパンフレット、記録作成等々孤軍奮闘下さっていましたが、体調不良のため今回は事務局長永井和子が代わり、これまでの相川氏の作成方法を手本に、理事各位のご協力のもと作成しました。情報伝達が不十分ではありますがご寛容をお願いいたします。

編集後記 (増補改訂版)

幹事 相川修一

諸般の都合により、学会通信の編集に携わる事ができずになりましたが、理事会での話し合いにより、学会通信第32号を増補改訂版として装い新たにお届けすることができることとなりました。情報はすでに過去の物になっていますが、写真をふんだんに取り入れ、カラーの鮮やかさとフォントの美しさ、さらにはホチキスで綴じられている保存性の良さという利点を付加してお届けします。また、第33号もあわせてご覧いただければ、同じページ数なのに情報量がアップしていることお感じいただけると思います。質、量ともに充実していると自負しています。さらに発展させるには、会員のみなさんからの投稿、情報提供が不可欠です。その点、ご協力のほどよろしくお



願います。

学会通信の体裁に関しましては、様々なお考えがあることは承知しておりますし、私が作成に携わるようになって当初からも多くの議論がありました。結果、インターネット時代に即しつつも、これまでの編集方針も最大限尊重するというで現在の体裁ができました。

永井事務局長の事務局だよりも言及がありますように、「世相のニーズ、会員の皆さまの要望に応えるべく模索」をしてきました。特に、末会長、小川前事務局長とは、その他の印刷物も含め、多くの時間を費やして、常に改善に努めてまいりました。その努力が認められたのか、国会図書館での所蔵についてのオファーがありました。今後、手続きがなされて所蔵されることになるかと思えます。

その今期を締めくくるにあたり、積み上げてきた成果を生かした体裁の増補改訂版を会員のみなさんにお届けすることができることをうれしく思います。ですが、やり残したと思うところは多々あり、志半ばである事が心残りです。次期の編集人の健闘を祈り、その責を託したいと思います。ホームページも同様にリニューアルが施されると思われます。

なお、増補改訂版の作成、印刷にかかる費用は末会長と編集人相川の個人負担です。本学会の財政には影響を及ぼすことはありません。これまでのご協力への感謝を込めて、末会長と私から、大切な学会のための贈り物です。

2015年10月15日 (初版)

2016年 5月29日 (増補改訂版)

日本声楽発声学会 学会通信 第32号

発行人 末 芳枝

編集人 永井 和子 (初版)

相川 修一 (増補改訂版)

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail :jars@jars-voice.com

HP: <http://www.jars-voice.com>